

鵜沼海岸五丁目水害シナリオ 3 (改10.13収録用)

台風二十二号上陸 十月九日八時三十分から翌日十日以降の災害復旧状況
上陸地点 神奈川県相模湾・関東直撃
台風の勢力 大型で強い台風

中心付近の気圧 九百六十ヘクトパスカル
中心付近の最大風速 秒速三十五メートル

進路 北北東に進み、その後進路を北東に変え、関東地方に上陸。九日夕方から十日未明にかけて、湘南地域は暴風雨、高波・洪水警報が発令

洪水地区 鵜沼海岸五丁目町内会(二〇〇四年の台風二十二号でも浸水被害発生)
町内会の対応 自主防災本部を鵜沼伏見稻荷神社に設置、台風通過後も引き続き活動

天候 台風一過、晴天が続き水害復旧は進んでいる。

課題

藤沢市では、風水害等の発生におけるごみ処理を環境衛生上、迅速かつ適切に処理する必要上、災害に伴う家屋およびその周辺の清掃は各個人が行うことを原則としており、消毒については市で実施する。被災者個人の対応を、地域としてのごみ処理、ボランティアへの対応等町内会としての取り組みとしてどう行うか、また災害見舞金等の煩雑な申請手続きなど、被災者にどう手助けできるか等が課題になる。

状況設定

大型台風の上陸により、町内会が自主防災本部を設置。水が出始めてから本部に問い合わせが相次ぎ、役員はその対応に追われる。浸水被害が報告され、独居老人の救出を始めたが、引地川の一部から浸水、加えて地域といったいが停電になり、役員達はパニック状態になる。一夜明けて、台風一過復旧作業が始まるが、地域としての取り組みにいろいろな問題が起こってくる。

【ストーリー】

登場人物

水上 町内会長で地元の古株、洪水の被害経験はないが、町内の被害は何度も見ている。全体のまとめ役。

藤橋 副会長で世話好きな主婦。洪水の被害経験あり。(前回床上浸水)

岸川 会計係りで銀行の女子行員。几帳面、何事も事務的に割り切ってきぱき行う。洪水の被害経験はあり。(前回車水没)

高井 監査役で不動産屋、男気はあるが、話がオーバーで一才いい加減。洪水の被害経験はない。

川端 役員で飲食店経営、心配性な男性、おとなしくてぼそぼそ話すタイプ。洪水の被害経験はあり。(前回店内浸水)

河野 役員で証券会社部長。自我の強い男性、水害対策についての提案者。洪水の被害経験はあり。(前回新築家屋の床下浸水、外車水没)

岡部 役員で民生委員。女性、町内のご意見番的存在。洪水の被害経験はなし。

白鳥 役員の父の代わりに参加した若者、災害ボランティアの経験がある。本部に集まった住民

山川 吉井 隣人 消防士 ナレーションの声

伊地野

【ナレーション】

九日午後八時三十分、伏見稲荷神社の自主防災本部のテレビから不安をあおるように。「大型で強い台風二二号は、午後七時過ぎ、神奈川県藤沢市に上陸しました。各地で、がけ崩れや浸水被害が発生しています。台風は北北東に進み、十日〇時には関東北部から東北部に達する見込みです。今後未明にかけて、陸上では二十から三十メートル、海上では二十五から三十五メートルの暴風がつづき、雨量も五十から七十ミリの激しい雨のおそれがあります。今後も厳重な警戒が必要となります。」と言う台風情報のアナウンスが流れています。民生委員の要請により、町内会の自主防災本部から救助班が一人暮らしの高齢者の救助に向かっているとき、停電になり強風豪雨の中あたりは真っ暗になりました。さらに事態を悪化させるかのように「引地川が増水と高波による逆流で、日之出橋付近から川の水が流れ込んでいる」との情報も南消防署鶴沼出張所からつたえられませんでした。危険な事態に陥っている事から消防隊も現地に向かいましたが、急激な増水に救助がまにあうのかどうか。老人と、救助に向かった班の状況が分からない事に、水上会長は心配で落ち着いていられません。

(強い風雨の音高まってからカットオフ)

水上 山川さんからまだ連絡が入らないか。

藤橋 まだ入りません。

水上 引地川から浸水したら一メートル以上になるんじゃないか？

藤橋 それに停電で真っ暗だし、浸水している家の人たちは不安でしょうね。

水上 状況が分からないだろうからな。

岸川 これだけ人がいても不安なんですよ。

岡部 伊地野さん無事かしら。山川さんに連絡してみますか？

水上 もう少し待ってみよう、やたらに連絡を入れても救助の邪魔になるだけだ。

引き続き雨風の強い状態が続く。遠くで消防車や救急車のサイレンの音が聞こえる。

山川たちの救助現場。

山川 伊地野さん！伊地野さん！大丈夫ですか、返事をしてください。

吉井 伊地野さん！吉井です！中に居るんですよ！伊地野さん！

伊地野 吉井さんかい。

吉井 そうです！大丈夫ですか！玄関の鍵を開けてください。

伊地野 そこまで行けねえんだよ。

山川 何処に居るんですか。

伊地野 押入れの上の段に上ったんだが、踏み台を流されちまって降りられねえんだ。

消防士 皆さんどいてください、消防です。

山川 ああよかった。

消防士 どんな状況ですか。

吉井 本人は、押入れの上に居て無事ですが降りられません。それに、玄関は鍵がかかかっていて開かないんです。

消防士 押入れは何処にあるんですか。

吉井 玄関を入れてひとつ奥の部屋の右側です。

消防士 分かりました、ドアは壊しましょう。下がってってください。

バールで扉を壊す。バリバリッと戸の壊れる音。

消防士　いま助けに行きますよ。懐中電灯の明かりが見えたら声をかけてく

ださい。

吉井　伊地野さん、もう少しだから頑張ってください！

伊地野　ああ、わかった。

消防士　はい、大丈夫ですよ。僕に負ぶさって。そう、しっかりとつかまって

ください。さあ、行きますよ。

吉井　よかった、よかった！よく頑張ったね。

伊地野　皆さんありがとう、助かりました。

消防士　隣も平屋だけど、誰も居ないのかな。おい！誰か居ませんか！消

防です。へんじをしてください！

隣人の声　そのお宅の人は全員、うちの二階に避難してきてます！

消防士　わかりました！台風が収まるまでそこに居てください！

隣人の声　はい、わかりました。

山川　伊地野さんは、私たちが避難所まで連れて行きます。

消防士　そうですね、ではお願いします。われわれは近所を警戒して回りま

す。

吉井　ご苦労様でした。さあ行きますよう。

山川　そうだ、きつと心配しているだろうから。会長に報告しよう。

(強い風と雨の音)

【ナレーション】

午後九時三十分、伏見稲荷神社集会所の自主防災本部に、ずぶ濡れになった河野班、高井班が帰ってきました。

河野　ただいま戻りました。

水上　やあ、皆さん本当にご苦労様でした。

高井　ひでえ、ひでえ。停電になると足元も見えないくらい真っ暗になっ

ちまうんだから。

藤橋　あら、会長さん、携帯鳴ってますよ。

水上　もしもし、水上です。おう！山川さん、どうでした救出できました！消防も来てくれて。それはよかった。はあ？直接避難所へ向かう、老人福祉センターですね。はいわかりました。出来たら早く戻ってきてください。これからどうするか相談したいんです。はい、では気をつけて来て下さい。

岡部 無事だったんですか、よかった。老人福祉センターに居るんですね。私ちよつと行ってきます。

水上 一人で行くのは危ないからよした方がいい。

岡部 私の仕事ですから、ほかのお年寄りの確認したので安心なんです、伊地野さんの様子が心配ですから行かせてください。

川端 会長、私と一緒にいきますからどうぞでしょう。

水上 民生委員としての立場は分かりますが……いいでしょう、様子を確認したら早く帰ってきてください。

岡部 はい。わかりました。

水上 二人とも十分気をつけて。

川端 はい、行ってきます。(二人出て行く)

河野 何かあったんですか？

水上 岡部さんが一人暮らしのお年寄りに電話で避難するように入ったんだよ、そうしたら「水が出たら机の上にも乗っかっている」って言うことを聞かないもんだから、山川さんたちが行ったんだ。その後、川の水が流れ込んでね、消防と一緒にやってやっと救出したんだよ。

高井 あの辺のうちには、早く避難するよう言ったんだけどな。独居老人の家は気がつかなかつたな。

藤橋 岡部さんの話じゃ奥のほうの引込んだところで分かりにくいそうよ。

水上 もっとしつかり、町内を把握しておかなければいけなかつたな。

岸川 町内会に入っていない人もいるんだから仕方ないわよ。

河野 それらも含めて、今後の検討課題ですね。

水上 そうだね。ところで台風情報はどうなっている。それによってこれからの対策を考えよう。

白鳥 台風の中心は、神奈川県に上陸してから北東に進路を変えて茨城県か福島県から海上に出て北上を続けるみたいですよ。

水上 通り過ぎるまでのくらいかかりそうだ。

白鳥 これから二時間ぐらいがピークです。

水上 もう少しの辛抱か。といったところでこの状態ではもうわれわれの手には負えない。後は市役所と消防に任せよう。

藤橋 まだ電話がかかってくるかもしれないよ。

水上 私がここに残るから、皆は戻って自分のうちで休んでくれ。

白鳥 会長さん、ここは僕と仲間が残りますから、家で休んでください。

何かあったら電話します。

藤橋

雨が小降りになれば、水はすぐに引き始めますからね。

河野

私たち浸水地域の者は、明日からの後片付けがありますから、様子を見て引き上げさせてもらいます。

水上

そうしてください、明日は被害にあわなかった人たちに声をかけて片付けの手伝いを頼みますよ。

白鳥

僕たちも朝になったらもつと仲間に声をかけてみます。

水上

それは助かる。山川さんたちにこのことを伝えたら、後は白鳥君たちに任せるよ。

白鳥

それも僕たちがやりますよ。

水上

いや、これは会長の仕事だ。皆さんご苦労様でした。明日は九時ごろから集まるようにしましょう。徹夜組の若手の皆さん、後はよろしくお願いしましたよ。

白鳥たち「はい」と返事をする。めいめい帰り支度をし始める。外は相変

わらず強い風雨の音。時々消防自動車のサイレンの音。

音楽による長い間

(不安な感じの曲から徐々に明るい感じの曲に変わってゆく)

【ナレーション】

十月十日晴れ、台風二十二号による浸水被害が多く出た鶴沼海岸五丁目十番、十一番、十三番町内では、朝早くから浸水後の後片付けが始まりました。電気は明け方には復旧しましたし、幸いなことに水道も使用できるので、泥水を洗い流す作業を始めている家もあります。

白鳥君たちは早朝から浸水地域を巡回して、床上、床下、店内等、清掃の手伝いをする順位を調査して浸水被害の住宅地図を作成しています。

午前八時三十分ごろ、水上会長が本部に差し入れの食べ物を持って来ました。

水上

おはよう、夜通し起きていたのかい。ご苦労様。握り飯とパン、それに飲み物を持ってきた。

白鳥

ありがとうございます。遠慮なくいただきます。

水上

地図に何を書き入れているんだ。

白鳥

もうすぐボランティアが来るので、その人たちの派遣先を決めているんです。赤が床上、ピンクが床下、青が浸水した店舗です。

水上

もう調べて来たのかい。

白鳥

あの地域の皆さん、もう掃除を始めてましたよ。

水上

私も町内を一回りしてきたよ。何回も水が出ているのでかさ上げしたうちが多いから、ほとんどが床下浸水のようなだね。移動できなかった車も何台か水没していたな。

白鳥

家はかさ上げしてもガレージはそのままですからね。

水上

どんなに高くしたって、それ以上に水が出たらどうしようもないからね。

白鳥

そうだ、会長さん、市の方ではボランティアセンターを立ち上げたんでしょか。

水上

市役所でも災害対策本部は設置しているよ。でも、ボランティアセンターのことは聞いてないな。

白鳥

タベ皆でこれから取り組むことを書き出してみたんです。市との調整を会長にお願いしていいですか。

水上

この間の打ち合わせで言っていた事かい。

白鳥

そうです。水害ゴミの臨時の集積場所と収集予定日の確認。それから浸水地域の消毒の件です。

水上

そういえば、この前集積場所にした空き地には家が建っちゃったから、どこか探さなけりゃいけないな。消毒は、市でやっていたな。

白鳥

この地域の下水は合流式だから雨水と一緒に汚水もあふれているんです。それと川の水も混ざっているでしょう。消毒する家が多くて、すぐに、市の消毒が間に合わないようならば、ホームセンターなどで薬剤散布機を購入するとかして、地域全体が出来るように手配したほうがいいんじゃないですか。

水上

もう少ししたら役員が来るだろうから相談してみよう。

白鳥

僕たちは、ボランティアが来たらすぐ活動できるように準備しておきます。

水上

そっちの方は任せるから、よろしく頼みます。

水上の携帯電話が鳴る。副会長の藤橋からの連絡。

水上

もしもし、水上です。

藤橋 会長さん、藤橋です。
水上 お宅のほうはどうでした、大丈夫でしたか。
藤橋 ありがとうございます、床下まで来ましたけど大丈夫です。今日、
水上 本部のほうで集まりがあるんですか。
藤橋 白鳥君たちがボランティアの手配だの、色々準備をしてくれている。
水上 ほんとに、彼らの若い力には助けられましたね。
藤橋 ああゆう若者が町内に居てくれるのは頼もしい限りだよ。
水上 それで私はどうしましょう。
藤橋 家の片づけで大変でしょう、そちらを優先してください。
水上 ありがとうございます、
藤橋 何かあったら電話で連絡を取り合いましょう。
藤橋 わかりました、では失礼します。

水上が電話を切ると、すぐに河野からかかってくる。

水上 はい、水上です。
河野 河野です、本部のほうはどうですか。
水上 おう、河野さん。こっちは若い者に任せてますよ。
河野 そりゃあいい。
水上 河野さんちはどうでした。
河野 床下まで来ちゃいましたね。今、家の中を水洗いしているところで
水上 す、水道が使えるので助かってますよ。
河野 停電も早くに直ったし、ガスも大丈夫みたいですよ。
水上 今日には本部にいけそうもないんで何かあったら電話をしてください。
河野 大変なのはわかってますから、こちらの方は心配はしないでください。
水上 い。白鳥君たちが、ボランティアの割り振りをしてますから、まも
河野 なく手伝いの人が行くと思います。
水上 そりゃあ助かります。今回若手が協力してくれているので心強いで
河野 すね。
水上 ああ、本当にそう思う。
河野 それじゃ失礼します。
水上 頑張ってください。
水上 またか。いそがしいな。はい、水上です。

水上が電話を切るとすぐ高井からかかってくる。

高井 会長、高井です。

水上 おう、高井さんか。あんたんところは大丈夫だったんだろ。

高井 ああ、家は問題ないんだけど、管理しているアパートや駐車場がやられてね当分本部のほうにはいけないんで、そっちで決めることは会長に一任するからよろしく。

水上 わかった。高井さんも、自分の仕事をやってくれ。

高井 そういわれると助かる。そうそう、臨時のごみ置き場見つかったかい。

水上 まだだ、前に借りたところは家が建っちゃったからね。

高井 俺んところで管理してる畑があるんだ、持ち主に聞いたら使っているって言うんだよ。

水上 そりやありがたい、場所は何処だい。

高井 江ノ電バス車庫の隣なんだ。

水上 あそこか、被災地域から遠くないか。

高井 一日か二日、工務店からトラック借りて運んでやりやいいじゃん。落ち着いたら普段の集積所に出していいんだろ。

水上 たぶんそうだろうと思うけど・・・。市役所に相談してみるよ。

高井 そうだね。おっと、これから電気屋と打ち合わせなんだ、時間が取れたら寄るから。

水上 無理なくないよ。ごみの仮置き場のことはまた連絡する。

高井 わかった、それじゃまた。

水上 はい、ご苦労さん。

水上が電話を切ると同時に、岸川からかかってくる。

水上 もしもし。

岸川 水上会長さん、やっと通じた。ずうーとお話中でしたね。

水上 皆から次々にかかってくるからね、岸川さんのところはどんな具合だい。

岸川 家はやられちゃいました。畳の部屋がだめですね。今度はフローリングにでもします。

水上 そうかい、それは大変だね。こっちの事に気を使わなくてもいいから、自分のうちのことを優先してください。

岸川 ありがとうございます。

水上 皆と電話しているうちにね、ボランティアの人たちと山川さんや岡田さんたちが浸水地域の手伝いに行きましたよ。いまでも婦人会の人
がきて、炊き出しをどうするかって話しているところですよ。
岸川 私、行きましようか。
水上 いや、いいよ、いいよ。
岸川 そうですか、それじゃお言葉に甘えて。
水上 そうしてください、じゃあこれで。
岸川 あっ、いけない。大事なことを忘れてた。
水上 どうした、まだ何かあるのかい。
岸川 岡部さんに電話してあげてください。会長さんにつながるから
って、私のところに連絡があったんですよ。
水上 なんだろうな。
岸川 詳しいことは分かりませんが。
水上 分かった。電話してみる。
岸川 お願いします。
水上 はい。

岸川からの電話は切れる。水上は岡部に電話をかける。

水上 もしもし、岡部さんですか。
岡部 はい、岡部です。
水上 水上です。岸川さんから伝言受け取りました。
岡部 ああよかった。いま病院なんです。
水上 どうしたんです。怪我でもしたんですか。
岡部 私じゃないんです。伊地野さんが避難所で体調を崩して病院まで付
き添ってきたんですが、入院してしばらく安静にしていなければな
らないんです。
水上 それは大変だ、岡部さん一人で大丈夫ですか。
岡部 ええ、大丈夫です。でも、保険証とかお金とかそういうものは全
部家においてきちゃったんです。
水上 えっ！伊地野さんちは水没状態だったんだろ。
岡部 ええ、お金や大事なものは小さな手提げカバンに入れて押入れまで
持っていったんですが、救助の時に置き忘れたらしいんです。
水上 じゃあ、まだ家の中にあるわけだ。
岡部 そうなんです。誰かに取りに行ってもらえませんか。下着やパジャ
マは私が手配しますから。

水 上 わかりました。で、何処の病院ですか。
岡 部 藤沢市民病院です。
水 上 行きつけの病院なんですね。
岡 部 そうです。
水 上 救急車で運ばれたの。
岡 部 いえ、吉井さんの車で。
水 上 個人タクシーの？
岡 部 ええ、どうしてもって言い張るもんですから。
水 上 まったく頑固な人だ。でも、どうやって届けるかだな。
岡 部 吉井さんに行ってもらいます。
水 上 そうですか、わかりました、手配しておきましょう。
岡 部 よろしくお願いします。
水 上 岡部さんこそ、ご苦勞様です。さてと、昨日、伊地野のさんちにい
つてたのは・・・山川さんだ。ええと、山川さんの携帯番号は・・・
（電話をかける）もしもし、山川さん、水上了。
山 川 ああ、会長さん。何ですか。
水 上 いま何処にいますか。
山 川 十番の飲食店です。
水 上 ちようどよかった。伊地野さんちは近くだよね。
山 川 はい、近いですよ。
水 上 すみませんが、家の中に入って押入れの上の段を見てもらえませ
んか。
山 川 誰も居ないんですよ、やたらに入っちゃっていいんですか？
水 上 伊地野さんが入院しちゃったんだ。押入れのところに小さな手提げ
バックがあるんだそうさ。その中に現金や保険証が入ってるらしい
んだよ。
山 川 本人は承知しているんですね。
水 上 ああ、岡部さんが付き添って病院に行っているんだ。それで連絡が
あつてね。夕べ一緒だった吉井さんが受け取りに行くから渡してほ
しいんだ。
山 川 じゃあ、見つかったら会長に電話します。
水 上 そうしてください。待ってます。
山 川 はい、承知しました。

電話が終えたところに川端がやってくる。

川端 会長、何か手伝うことがありますか。

水上 あれ、川端さん、お店のほうはいいんですか。

川端 息子と店の若い者がやってくれてましてね。

水上 こっちも若い者がよくやってくれてますよ。私は、これから市役所の環境部と、ごみ処理や消毒のことで打ち合わせをしようと思っただけのところですよ。

川端 今、市役所は電話の問い合わせで大変でしょう。直接行ったほうがいいかもしれないですね。

水上 そうだな、話の要点をまとめてから、出かけてみるか。

川端 私も一緒に行きますよ。車を持ってきます。

水上 そりゃ悪いよ、店の片付けのほうを優先してください。

川端 いいんですよ、私も婆さんも邪魔者扱いなんですから。

水上 すまないね。じゃあお願いします。それまでに要点を書き出しておくから。

川端 はい、ではちょっと待っていてください。

川端車をとりに出て行く。水上の携帯がなる。

水上

あつ、山川さん。はい、はい、カバンを渡してもらえた。ご苦労様です。ああそうだ、私これから市役所についてきますから、しばらく此処を離れます。それから、婦人部の方でおにぎりや飲み物を用意してくれてますから、都合のよいところで一休みするよう、若い人たちに伝えてください。はい、はい、それじゃあお願いします。

時間の経過をイメージした様なゆったりした音楽が流れる。

【ナレーション】

台風二十二号による浸水被災から数日がたちました。浸水地区の後片付けも、町内会員やボランティアの協力により予想以上にはかどり、被災者は少しずつ生活のリズムを取り戻してきています。水上会長は、いままでの経過報告と今後の対応を話し合うために、夜になってから町内会の役員会を招集しました。

水上

こんばんは。まだまだ後片付けに追われているお忙しい中、役員会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。今回の台風二十二号による被害は、洪水ハザードマップで予測された地域のほぼ全域で起こっています。藤沢市災害対策本部の情報によると、五丁目町内会の浸水被害が前回を上回ったのは、予想以上の豪雨に加え、台風の直撃による高波で、引地川が逆流して川の水が流れ込んだことと、下水道の処理能力を上回る雨水の流入により、内水氾濫型の災害になったということです。引地川上流も豪雨により氾濫しましたが、途中にある平成五年度に完成した、大場遊水池が機能して、下流の増水は緩和されたようです。それがなければ、此処はもっと被害が拡大していただろうとのことです。いずれにしても以前にあった狩野川台風のような、人的被害がなかったことは幸いでした。これも皆さんのご協力の賜物と、感謝しています。(口調を変えて)さて、杓子定規な前口上はこのくらいにして。ともかく「町内会がよく頑張ってくれた」という、お褒めの言葉が寄せられています。山田さんからは、車の移動のお礼にと、お菓子の差し入れがありました。これを頂きながら、皆さんの感じたことを話し合っ、今後の対策に生かしたいと思います。

藤橋

河野さんの提案で、水害対策の検討ができたことと、会長の判断で早めに自主防災本部を立ち上げられたことがよかったです。

高井

検討課題の一部しか実行できなかったけどな。

岸川

そうね、集水マスの掃除も出来なかったわね。

高井

それを言っちゃあ、実も蓋もねえな。

河野

ともかく出来たことと、出来なかったことを書き出して検証しなくてはいいですね。

水上

それはやる必要があるね。出ないと、応援体制が取れないからな。

川端

応援と言えば、今回はなんとと言っても、白鳥君たちの活躍ですよ。

岡部

そう、ボランティアの人たちには、ほんとに助けられましたね。

高井

それと、町内の人の協力だよな。

岸川

高井さんの担当は、何といてもアパートと駐車場よね。

高井

最初の日だけじゃねえか。後はブルドーザーみたいに働いたぜ。

岸川

分かっているわよ。高井さん見てると、ついからかいたくなっちゃうのよ。ごめんなさい。

岡部

ねエツ、まじめな話に戻りましょう。皆さんに救助してもらった

伊地野さんですけど、家があのような状態なので保健福祉部に相

談して高齢者福祉施設のほうでしばらく面倒をみてもらっています。

水上　　そうですか、それは一安心ですね。しかし、早く対応しなくてはならない要援護者や、独り暮らしの高齢者についての情報はもっと必要だね。

岡部　　今度、民生委員の会議のときに提案してみます。

水上　　そうですね、岡部さんにお任せします。後、自動車の被害のほうも何件か起きていますので、緊急時の移動先をスーパーや江ノ電バスにひきつづき話し合ってみます。最後になりますが、災害弔慰金、災害障害見舞金の支給や災害援護資金の貸付等については市役所の財務部に、相談してください。

藤橋　　早めに通知を回覧しなくちゃいけませんね。

河野　　通知文は私が作りますよ。

川端　　被害に遭った家には、直接届けたほうがいいんじゃないですか。

岡部　　そのほうがいいと思います。私も配ります。

高井　　俺も配るよ、現状確認も出来るからな。

岸川　　私は勤めがあるから昼間はだめだけど、夜なら配れるわ。

高野　　私も岸川さんと同じだな。

水上　　みなさん、ありがとう。私が今回のことで一番うれしく思っていることは、さつき高井さんがいっていた、町内の人たちの協力なんですよ。今までいろんな行事をやってきたけれど、若い人を含め、これほど多くの人たちが自主的に集まって、協力してくれたことはなかった。本当に感謝しています。

河野　　私を含め、被災者の方々も、大勢に助けられてありがたく思っています。

高井　　こういっちゃなんだけど、すごく充実した気持ちになったな。連帯感ももてたって言うか、わくわくして、次が楽しみだね。

水上　　もう勘弁してもらいたいなあ。そういっても、災害はいつくるかわからないんだよな、言い古されたことだけど、備えあれば憂いなし。みんなの思いやりと助け合いの気持ちを大切にして、町内の防災計画をしっかりと作り上げていきましょう。

「賛成」「異議なし」の声に続いて拍手が起こる。
かぶさるように明るい音楽が流れてくる。

ストーリー3 終わり

地域発防災ラジオドラマ
現状とドラマ（フィクション）との相違点

- このドラマの舞台となった鵜沼海岸5丁目は藤沢市の西縁を流れる引地川（ひきちがわ）の流域になります。町内会は二〇〇〇人弱、七〇〇世帯ほどですが、まだ自主防災組織が十分に組織化されていません。このドラマでは町内会の役員が自分たちで判断して自主防災本部を鵜沼伏見稲荷神社の集会所に立ち上げるといふ仮の想定で話が展開していきます。
- ドラマでは町内の浸水が懸念される地区に居住しているある高齢者が、住民の自主避難の説得に応じないシーンが描かれます。水害の場合、浸水がひどくなる前に（できれば浸水の事態が発生する前に）安全なところに身を寄せることが被害を防ぐ上で大きな意味を持つと思われれます。この判断を適切に行うことは非常に難しく、二〇〇九年には兵庫県で自主避難中に流されて大勢の方が亡くなるという痛ましい事故が起きました。ドラマでは避難のタイミングまでは議論されませんが、このドラマをきっかけにして、地域ごとにどうすれば安全な自主避難が出来るか議論していただくことが大切だと考えています。